MPSSA NEWS

三防設通信

Mie Prefecture Security Systems Association

NO.35
2025. 08

ご挨拶

NPO法人　三重県防犯設備協会
理事長　藤村　喜成

令和7年も夏を迎え、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
平素より当協会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
近年、三重県内の刑法犯認知件数は再び増加に転じ、SNSを悪用した詐欺や住居侵入など新たな手口の犯罪が地域の不安を高めています。こうした中、私たち防犯設備士の果たすべき役割はますます重要となっています。
当協会では「まちの防犯診断」や各種イベントを通じ、地域の皆様と共に防犯力の向上を目指してまいりました。
今後も地域連携と啓発活動をさらに推進し、安全・安心な暮らしを支える力となれるよう努めてまいります。
引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

協会の活動内容

1.「まちの防犯診断」を開始　地域の力で進める安全なまちづくり

―伊勢市藤里団地にて「まちの防犯診断」実施―

診断の模様

診断後のミーティング

令和7年6月25日、三重県伊勢市藤里団地において、NPO法人三重県防犯設備協会が主体となり「まちの防犯診断」が実施されました。
この診断は、防犯設備士が警察官、自治体関係者、地域住民とともに団地内を巡回し、防犯上の課題や改善点を抽出・提案する取り組みで地域と協働した防犯対策の一環です。
本協会では、防犯設備の専門知識を活かし、防犯カメラの設置箇所の提案や防犯啓発活動の推進を行っており、今回の診断では、住宅の構造や防犯灯設置状況、防犯カメラの運用体制など、多角的な視点から地域の安全を検証しました。
当日は、防犯灯が多く設置されていること、樹木やごみの管理が行き届いていること、防犯カメラが適切な場所に6基設置され、定期的な点検体制が整備されていることなど、地域全体に高い防犯意識が根付いている様子が確認されました。
また、住宅の見通しが良く、テレビドアホンなどの個別対策も充実している点が評価されました。
一方で、公園の管理体制や空き家の適切な維持、防犯対策の「見える化」に関しては今後の課題として挙げられました。
特に、防犯カメラの設置や点検体制の周知を通じ、地域住民に安心感を与える工夫が求められています。
また、空き家への侵入リスクに備え、地域全体での情報共有と迅速な対応体制の強化が必要です。
本診断の結果は「まちの防犯診断報告レポート」として取りまとめられ、回覧板や掲示板、SNSを通じて地域に共有されます。
これにより、地域全体の防犯意識をさらに高め、自主防犯活動の活性化につながることが期待されています。

今後もNPO法人三重県防犯設備協会は、地域イベントへの参加、メディア活用、地元団体とのネットワーク強化などを通じて、「まちの防犯診断」の認知度向上と連携体制の拡充を目指します。
安心して暮らせるまちづくりのために、引き続き地域と共に歩んでまいります。

（藤村理事長記）

2. 令和7年定時総会・スキルアップ研修会開催

定時総会

スキルアップ研修会

令和７年５月30日、津市センターパレス中央公民館情報研修室にて、令和7年度定時総会および事業報告、さらにスキルアップ研修会が開催されました。
昨年度に引き続き、今年度も来賓のご臨席を賜り、懇親会も併せて実施いたしました。
会合は正会員、個人会員、賛助会員の他、三重県、三重県警察本部、三重県防犯協会連合会、愛知県セルフガード協会から出席いただきました。
第一部の総会は、来賓の三重県警察本部 生活安全部首席参事官 警視 須川洋幸様、三重県 環境生活部 くらし・交通安全課 課長 行村桂様、（公社）三重県防犯協会連合会 専務理事 山内範秀様 にご挨拶を頂いた後、令和６年度の事業・会計報告ならびに令和７年度の事業計画・収支予算など各議案の審議が行われ、原案通りに承認されました。
第２部の報告会では、藤村理事長から令和６年度の事業報告と今後の事業推進についての報告が行われました。
第３部のスキルアップ研修会はセコム三重株式会社の滝友成様、喜多浩平様から「最新のセキュリティシステム」のテーマで1時間講習いただきました。
近年の犯罪情勢やその傾向について、実体験を交えながらご講話いただき、また最新のセキュリティシステムに関する具体的な解説も含め、非常に興味深い内容となりました。
スキルアップ研修会終了後、近くの会場で情報交換を兼ねた親睦会を開催いたしました。

（松岡理事記）

3. 三重県市町担当者会議で「まちの防犯診断」を説明

令和７年５月21日、三重県吉田会館にて「犯罪のない安全で安心な三重のまちづくり市町担当者会議」が開催され、県内各市町の担当者が参加しました。
会議では、三重県警察本部生活安全企画課による施策説明に続き、NPO法人三重県防犯設備協会が地域連携による防犯活動「まちの防犯診断」について説明しました。
この内容をもとに伊勢市藤里団地にて、警察・自治体・住民と連携し診断を実施しましたが防犯カメラの設置箇所提案や啓発活動などを通じ、地域の防犯力向上を図ります。協会は今後も各地で同様の診断を推進していく方針です。

（藤村理事長記）

4. 地域リーダーフォローアップ研修会で講演

リーダー研修会

三重県主催の「安全・安心まちづくり地域リーダーフォローアップ講座」にて年賀寄付金配分事業「不審者の犯罪被害から子供を守るための調査及び安全講習事業」についての講演を行いました。
本事業は令和２年度より４年間に亘り、全国地域安全運動の一環として、津市内の小学校４校を対象に実施致しましたが、講演では実際に作製された冊子「通学路危険箇所マップ」をもとに、危険診断のポイント、保護者の方、地域の方への効果的な伝え方を中心に説明を行いました。
平素より、地域防犯のリーダーとして活躍されている皆様方を中心に聴講頂きましたが、ご自身の地域で同様な調査事業をされる際の具体的なアドバイス（予算面、必要人員、関係先との連携方法）を求められる等、非常に熱心に聴講頂きました。
また同日、三重県環境生活部くらし・交通安全課様より「安全・安心な三重のまちづくり防犯サポート事業者登録制度」についての説明がありましたが、これは地域での防犯活動の課題となっている「高齢化」や「担い手不足」に対応するため、事業者が積極的に防犯活動へ参加できる環境まちづくり活動ですが皆様におかれましも参画賜れば幸いです。

さらに、キリンビバレッジ株式会社様より防犯カメラ付き自動販売機（みまもり自動販売機）の説明がありましたが、地域のセキュリティレベルの維持向上に非常に効果的であると考えます。

（楠副理事長記）

5. 木曽岬町ふれあい広場で防犯設備展示説明

展示・説明のブース

令和７年３月16日　９:00～15:00、『伸びゆく木曽岬町の ふれあい広場２０２５』が開催され当協会も防犯設備の展示・説明を行い、防犯対策についてしっかりとPRしてきました。
このイベントは、木曽岬町の産業・教育・文化の振興に資することを目的として、毎年３月の春分の日頃に開催されている恒例行事です。
会場では、町内特産品の販売や、福祉・健康に関する相談コーナー、各種機器の実演などが行われ、特設ブースでは各種団体による模擬店や、一般参加者によるパフォーマンスも披露されました。
今年は、ものまねタレントの「りんごちゃん」がステージで大活躍し、大いに会場を盛り上げてくれました。

（藤村理事長記）

6. 津警察署協議会で防犯講習

協議会会場

令和７年２月26日、津警察署会議室に於いて、津警察署管内にて選出された各界を代表する委員様と津警察署関係者にて構成される津警察署協議会にて、住宅のセキュリティシステムの防犯講習を実施しました。
尚、警察署協議会は、警察署の業務運営に地域住民の意見を反映するため設置されています。
今回の防犯講習は
１．防犯カメラについて
２．CP錠について
３．防犯合わせガラス（CPガラス）について
防犯設備の展示実演を中心に行いましたが、中でも防犯合わせガラスのガラス割り実演では実際の侵入抑止効果に出席者の皆様方から驚きの声があがっていました。
また、CP錠ではサムターン回し防止機構に、防犯カメラは画像の精細さに関心を持って頂けました。
その他、テレビカメラ付きドアホンの効果、視認性の高い環境づくりの重要性、ワンドアツーロックの効果、防犯カメラの効果的な設置方法についてお話させて頂きましたが、昨今の侵入盗の凶悪化していることもあり一番効果的な防犯設備は何か？といった意見交換もありました。

（楠副理事長記）

■ 関連行事・イベント・その他

1. 第9回地域協会連絡会開催

地域連絡会会場

質問する加藤理事

令和７年７月４日東京都港区青山いきいきプラザで第９回地域協会連絡会が開催されました。
今回ははじめてのZoomを併用したハイブリットによる会議となりました。
北海道を始め全国から13協会15名、日防設を含め24名が出席しZoomによる６地域協会を含め３時間行われました。
廣田代表理事の挨拶に続いて日防設から2025年重点施策について説明が行われました。

1）防犯設備士受験者増に向けた取組み
ここ10年間の受験者数の推移が示され、2017年の年間1400人に対し昨年の2024年では770名と半減しており、地域協会での紹介制度の説明と受験勧誘のお願いがありました。
大阪からは、２府４県で関西防犯設備士協会連合会を作り、電材卸業協同組合、電気工事士組合などで防犯設備士のPRを実施されています。

２）防犯設備士の更新講習の状況、資格更新促進について
資格更新期間を2025年４月１日より、３年から５年に変更し、2026年４月１日以降、平成24年度以前の資格取得者の資格更新義務化など制度の大幅な改正が行われます。
防犯設備士の資格更新促進については、資格更新制度の改正を周知する必要があり更新の案内時点でチラシを入れる等PRが行われます。

３）総合防犯設備士制度の運用・実施状況について
　昨年度に制度の見直しを行い、その中で筆記試験の実施方法を変更した。
　受験資格を防犯設備士で有る事に緩和し、合格基準について科目合格制を導入した
４）RBSS（優良防犯機器認定制度）事業の普及・拡大
　東京都では、防犯カメラ等の助成制度の中でRBSS認定品の採用を推奨されています。

次に、各地域協会の活動報告が行われ14協会から発表がありました。
千葉県からは浦安市で行った防犯講話をきっかけに協会と「防犯に関する協定」を結びたいとの要請が出されており、神奈川県では、県の後援で不動産関係者を集めた防犯優良戸建住宅の現地見学会を企画され、その効果で認定申請が増加している。また、愛知県では「まちの防犯診断」のレポートにもとづき愛知県警が「トライアルカメラ」を実施し、カメラの試験運用（３ヶ月から半年）をした後本設置を行っている等新しいユニークな活動が報告されました。
三防設からは初めて実施した伊勢市藤里団地での「まちの防犯診断」について報告しました。

（加藤理事記）

2. 日本防犯設備協会総会で警察庁長官賞を受賞

令和７年６月10日東京都港区のホテルアジュール竹芝で開催された日防設通常総会で当協会の加藤理事が春山会長から警察庁長官賞を受賞致しました。
加藤理事は初代防犯設備士委員長として防犯設備士制度の創設に尽力し、爾後38年間にわたり日防設と三防設で事業の進展に寄与した功績が認められたものです。

3. 愛知県セルフガード協会第24回総会に出席

令和７年６月19日、KKRホテル名古屋において、愛知県セルフガード協会第24回総会が開催され、出席者は50名を超え、盛大に執り行われました。
来賓挨拶で、愛知県警察本部生活安全部長・竹村賢二氏が犯罪認知件数は増加傾向にあるが、住宅侵入盗は前年より減少していると述べられました。
これは、愛知県が実施する「まちの防犯診断」の効果が表れているのではないかと感じました。
さらに、「富裕層をターゲットとした犯罪グループの暗躍は続いている」とのご指摘もあり、今後のさらなる皆様のご活躍が期待されます。
総会後には、東洋大学社会学部教授・桐生正幸氏による「カスハラの実際と対策―犯罪心理学の視点から」というテーマで講演が行われました。

（藤村理事長記）

□会員動向

会員プロフィール紹介

上田高明　NPO法人三重県防犯設備協会　正会員
勤務先　三建金物株式会社　代表
電話　059-346-5151
E-mail　ueda@san-k.co.jp
趣味　読書、映画鑑賞
HP　http://www.san-k.co.jp

金物卸（主に扉廻り）鋼製扉、軽量扉製作販売をしています。電気錠など総合的に防犯に取り組んでいます。宜しくお願い致します。

□ 事務局からのご連絡

・次回発行予定　　三防設通信は第36号を2026年1月にお届けの予定です。
　編集責任者 NPO法人 三重県防犯設備協会〒514-0131 三重県津市あのつ台4－7－7（三重電業(株)内）
　TEL　059-232-0303　FAX　059-232-5586